

10

389

予黨総論としては「融会派」を、
億一千八百八十圓四千四百八十一圓、持
別会計は合計十二億六千五百一十七万では、その熟行に當つては、融会派の財源
六千余圓となり、總計二十五萬七千の取得と確保とに鋭意努力すべき等にして、わが平家市を
十九万六千餘圓、ほぼ二十五萬七千とは言ふまでもなく、融会派の財源を解消し、健全なる財政
千万圓の財政増額を示して、適切な合理的な実行において、財源として地方自治体の自主主
算に較すれば、一般会計における効率性を充分に著け得よう。全市民の公憤としてサ

政界進退進歩利權法を以て、財源

36年度の市政方針

(ホーイスカウト提供)

新・新市建設計画を確定

10年後の人口18万

合併時の計画1本にまとめる

三月九日議事堂にひかれた第三回市議会臨時会では、平塚市新市建設計画を、長時間にわたる審議のすえ、原案どおり可決しました。このあたらしい建設計画は、新市建設促進法にもとく、自治省の指定を受けて、昭和三十四年度から市が、新市建設審議会（会長杉山三三三氏委員五名）からなる市長の諮問機関を設け、市助役・企画課・建設課を中心に審議してきまものです。内容的には、昭和二十九年度（昭和三十一年四月一日）大野町が五万九千、同三十二年七月旧日村、三十二年九月旧日村を合併したとき、そのつづきから新市建設計画を取り決めた建設計画を大きく、本にまとめ、あらためて全市を一体とする立場から調査検討し、平成以後の基本的な総合建設計画として再編成したものです。あたらしい新市建設計画は昭和三十五年度から四十四年度までの十年にわたる基本計画と、三十五年度から三十九年度までの第一期五年実施計画とからなっています。ことに五十年実施計画は、たしかに財政計画の裏付けにたつた年度別計画に編成して、今後毎年度の予算の骨格をなしていくものとして注目されます。この計画は、市議会の議決を経てここに正式に決定し、同時に、神奈川県知事、自治省に提出しました。

基本構想・十年計画

新市建設十年基本計画の重点目標は次のとおりです。（昭和三十三年、四十四年度）

- ①人口所得計画 平塚市十年後の人口十八万人を目標とし、労働人口の増大を、既設工業の振興・工場誘致の促進、商店街の発展などによって就労の道をひとつと、営業指導、中小企業の育成などを推進して、各層の所得増進（一）をみる。
- ②立地条件整備計画 都市水・利施設の整備、土地改良事業の推進、道路網（交通）の整備、既存工業地の環境整備、工業地の開発と住宅の増進（二）による土地の用途の向上をはかる。
- ③産業振興計画 工業・商業・漁業にわたる次の計画を定める。

①用水路整備による水田生産力の増進をはかり、適地適産の実をあげる農業振興を推進する。か、改良増進多額融資などによる農業の振興、品種改良、出荷体制の確立による果樹きょう園業の振興、農業団体の統廃合による業務の合理化と指導の一本化をはかる。

②市街地化による人口が急激に増加する地域に、義務教育施設（小・中学校）の新設をなす。若者層の増大、特別教室、給食施設などの整備を行う。

③講堂（兼屋内体育場）の新設整備を促進する。

④市立高校（商業科）の整備をはかる。

⑤社会教育の場として公民館、体育館、児童館、総合センター、青少年センターの整備をはかり、特殊学級、幼稚園の増設により教育施設の増進をはかる。

⑥保育所などの増設を行ない、労働力の助長をはかる。

⑦若者層の増大を考慮し、老人ホームの建設をはかる。

⑧公園緑地の整備、遊歩道の拡充により、金融の円滑、家賃の低下による所得増進をはかる。

⑨汚水、ゴミ処理施設の増設による衛生の増進をはかる。

⑩公園緑地の整備、市街地火災警報、墓地の移転促進による都市の発展をはかる。

⑪飲料水と良地区に簡易水道の施設を定める。

⑫防犯体制の普及と医療施設の整備をはかる。

⑬文化センター、産業の中心施設として、市民会館を建設する。

⑭生活改善の一助として、市営住宅を建設する。

⑮漁港整備の促進と、漁業の振興を促す。

⑯防火施設の増設、また、共同設置のアーケード施設など、防犯の増進をはかる。

⑰企業誘致、研究資金を通じて商業振興の合理化をはかる。商工会議所、その他団体の強化育成も推進する。

⑱既存工業の振興をはかる。また、新規工場団地の造成を促す。新規工場団地の造成を促す。新規工場団地の造成を促す。

⑲国鉄駅周辺の増進、通商施設の拡充を促し、工業用水確保の対策を促す。

⑳教育厚生計画 ①の分野では、次の十五項目を重点目標とする。

計画策定の前提条件

新市建設計画を策定する上で、前提条件として考えられた点は次のとおりです。

①内外の政治・経済などの状況のうつりかわりによって影響を受けるのは当然だが、当面の地方行政財政制度は、基礎をおき、推進できる範囲の改正点を考慮して計画する。

②平塚市は、地勢上、交通上好条件を備えた大規模な都市であり、商業、経済、教育、文化等の交通の中心地である。この重要性を考慮に入れて計画する。

③平塚市の行政と他地域との有機的な関連を考慮に入れ、計画にあつては、隣接市との相互の関連性を確保することにつとめる。

④首都圏整備法にもとく諸施策は、積極的に推進する方針をとり、関係機関の連絡を密にし、平塚市を商工業都市として発展させる計画を策定する。

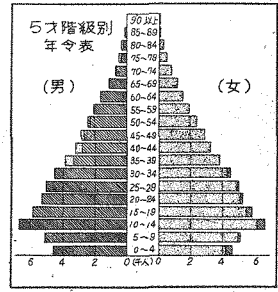
⑤都市化に伴う農耕地の減少と国鉄新幹線の建設による農業への影響を考慮し、農業の高度化計画も策定する。

⑥自治運営を合理的、能率的にするため、最小限度の経費で最大の効果をあげる行政財政運営を行なうよう考える。

国調のこたえ③

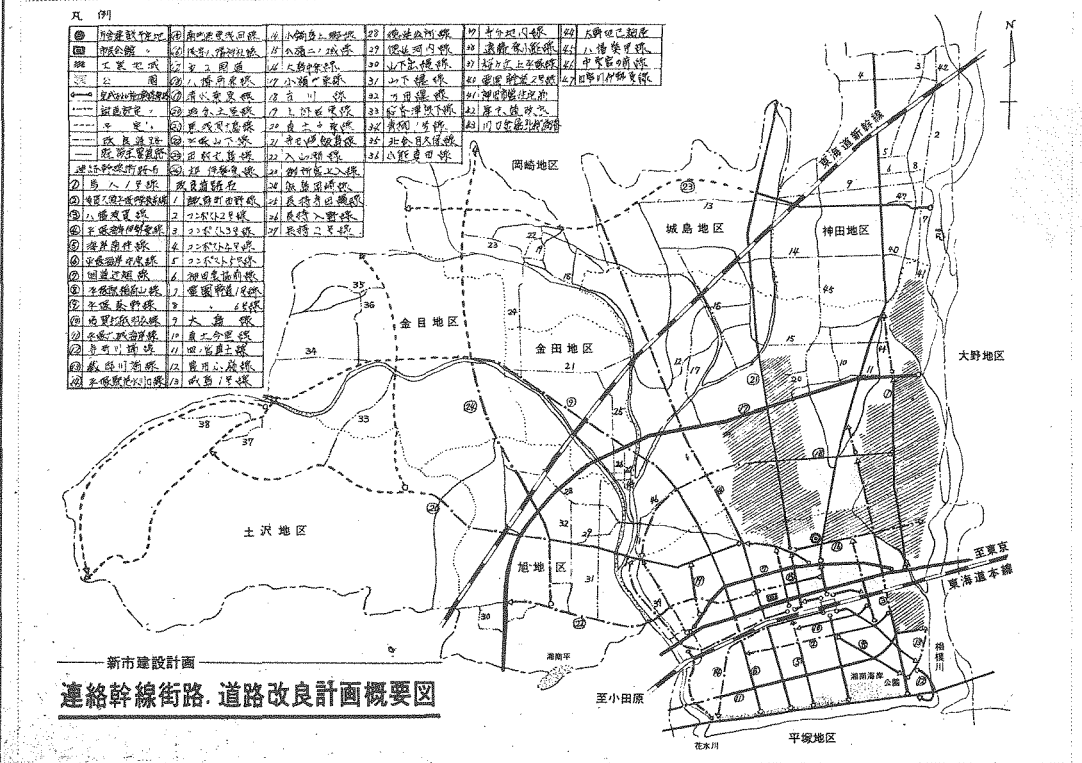
平塚市は若い 平均年令28才

10万余にはる平塚市民を年齢別にみると、下の図表、人口ピラミッドに示したとおり、男性が女性よりわずかに多くなっています。昭和生れはいずれも男性が多く、それ以前の生れ（35才以上）では女性が多くなっています。もつとも多い年齢層は12才を頂点とする10~14才で、これはベビーブームを起した終戦直後生れの少年たちです。この年齢層あたりを境として、平塚市の人口は都市形態をつよめ、人口老令化の一般的傾向とは逆に若さを示し、平均年齢28・1才となっています。



平塚の心臓部 馬入川上空より

新市建設計画は、昭和三十五年度から四十四年度までの十年にわたる基本計画と、三十五年度から三十九年度までの第一期五年実施計画とからなっています。ことに五十年実施計画は、たしかに財政計画の裏付けにたつた年度別計画に編成して、今後毎年度の予算の骨格をなしていくものとして注目されます。この計画は、市議会の議決を経てここに正式に決定し、同時に、神奈川県知事、自治省に提出しました。



新市建設計画 連絡幹線街路 道路改良計画概要図

47億2千万余円を投入

[illegible]

審議会の仕事
①換地計

・住居・職業・結婚・生活・老
その他精神的経済的問題なんて

これ
なつ
駐車
高68
つて
帳は
なつ

神入小

一

中

議員があなたのと
をお聞きます

料法律相談

毎月第1土曜日
午後1時～4時
市工食課所で
市入居擁護委員

総体25億9千万円

今年度の一般、特別各会計の予算総額は△一般会計……9億1,854万円
△特別会計・顕彰……7億9,440万円
同・顕馬……6億1,884万円
同・国民健康保険……7,618万円
同・国保診療施設……169万円
同・簡易水道……2,077万円
同・都市改造……7,833万円
同・馬入工業地帯造成……7,028万円
△一般・特別各会計の合計予算は総額、25億9,425万9千9百99円に達しました。このうち市民に直接関係のある会計の増減分は、前年比、一般会計1億9,191万円、特別会計国保事業費に398万9千9百99円、同簡易水道事業費に1,636万9千9百99円、同都市改造事業費に2,833万9千9百99円ほどで、や、減額となつた国保診療施設会計の分を差し引いても予算増減分の合計は、今年度2億4,000万円をこえ、市の行政内容の大きなびを示しています。

一般会計の収入支出

(収入) 36年度一般会計の収入予算は、
市税……4億9,682万円(54.1%)
顕彰馬……1億5,988万円(17.5%)
国の補助……9,256万円(10.1%)
市債……5,440万円(6.1%)
雑収入……2,971万円(3.2%)
使用料等……2,834万円(3.1%)
地方交付税……1,600万円(1.7%)
などを主な財源として、総額9億1,854万9千9百99円を見込みました。
(支出) 支出総額は、収入総額と同じで使途別予算の主なものは
教育費……2億2,838万円(24.9%)
役所費……2億1,897万円(23.8%)
土木費……1億2,814万円(14.0%)
社会福祉費……9,283万円(10.1%)
産業経済費……6,090万円(6.6%)
消防費……3,502万円(3.8%)
議会費……2,482万円(2.7%)
保健衛生費……1,983万円(2.2%)
諸支出金……5,071万円(5.5%)
公債費……3,161万円(3.4%)
財産費……2,401万円(2.6%)
新市庁舎、市民会館建設費を含む市役所関係費と、2部授業をきけるための中学校建設を中心とする教育費が、全予算の約半分を占めています。

36年度の建設事業

次に36年度予算のなかの計上した建設事業を紹介しておきます。

- 新庁舎と市民会館の建設に着手
- 新市役所庁舎建設費、市民会館建設費(各36年度分)＝6,000万円。
- 救急車購入、消防庁舎3、消火せん43基
- 消防自動車救急車購入
- 消防井戸建設10基(平塚、新宿各)



第2期戸川市政第3年次の昭和36年度歳入歳出予算は、さきの市議会定例会で原案どおり可決されました。ことしの予算は市長も市政方針のなかで力説しているように、引き続き教育優先、健全財政堅持を前提としながらも、任期後半にはいつた戸川市政の仕上げという意味で、公約実現のための精いつばいの事業予算を組み入れたものです。(写真江國中)

2、竜城ヶ丘、花水、中原、豊田、金田、土沢各1、④消火せん設置43基(県営八幡3・市営城島、岡崎、土屋、豊田に40)⑤河川せきどめ1(土沢)、⑥貯水そう1(土沢)など＝769万円。

●土木費関係
(道路)①市道10号線防じん舗装(平高前道路2,160m2)、②市道平塚大磯海岸線防じん舗装(浜田中前道路2,040m2)、③市道南町通り明石線防じん舗装(東善小東側1,300m2)、④細道防じん舗装(1,920m2)古真土中原線新設改良(430m)、⑤道路用地買収(古真土中原線・神田農協前・コンポスト3号線その他)、⑥平塚駅花水河口線測量、⑦文化路切立交差調整設計委託(松竹通り路切)⑧東浅間大島線街路路差、⑨前同街路路差(パイロット前から北700m)、⑩馬入1号線舗装(156m)、⑪須賀打越羽衣線舗装(236m)、⑫工業団地入口線舗装(600m)、⑬工業団地1号・2号線築造(計1,330m)。

(河川排水路など)①金目川閘音橋新設改良(橋台橋脚工事P Sコンクリート造り)、②大野地区測溝新設(1,842m)、③特別都下水路谷川排水路測量(4,000m)④区画街路測溝新設(5,000m)、⑤工業団地むすかし堀改修(310m)、⑥同補助幹線1号排水路新設(415m)(公園)⑦湖南平バス駐車場舗装、⑧八里・宝間児童公園遊具器具購入。

(その他)①戦災地区公園整理事業負担金(今年度分として1千万円)②失業対策事業費(今年度分は69,000人分5,139万円を計上)、＝1億2,114万円。

●教育費関係
①高浜高校県修費(屋内運動場整備)、②江國中本館建築(鉄筋3階13教室ほか、13室2,640m2と付属施設)③太洋中学校舎建築(鉄筋2階、2教室ほか2室359m2と付属施設)、④大野中本館建築(鉄筋2階、2教室ほか4室643m2と付属施設)、⑤神田中学校舎建築(鉄骨平家金工、木工室208m2と付属施設)、⑥土沢中学校舎建築(鉄筋2階、4教室ほか4室557m2と付属施設)、⑦中原小本館建築(鉄筋2階、4教室、ほか4室587m2と付属施設)、⑧大野小洗所足洗所外構等、豊田小便所、ひばり幼稚園テラス鳥小屋など工事費、⑨豊田幼稚園用地買収(1,650m2)、⑩中原小豊田小その他各校校地整備⑪四之宮公民館建築(木造平家148m2)＝1億648万円

●社会福祉費関係
①金目川閘音橋新設改良(橋台橋脚工事P Sコンクリート造り)、②大野地区測溝新設(1,842m)、③特別都下水路谷川排水路測量(4,000m)④区画街路測溝新設(5,000m)、⑤工業団地むすかし堀改修(310m)、⑥同補助幹線1号排水路新設(415m)(公園)⑦湖南平バス駐車場舗装、⑧八里・宝間児童公園遊具器具購入。

●産業経済費関係
①優良種畜導入(種牛5頭・種豚10頭)②園芸振興フレームハウス設置、モデル畜舎(種豚用5・肉豚用3)建設、酪農多頭化飼育施設(1頭)、水産加工衛生施設整備各事業補助金③土地改良事業(四之宮土地改良助成、真土暗き排水助成、金目沿岸土地改良区補助、馬入土地改良補助、大野土地改良補助、県費補助小規模土地改良補助、金目川九工区工事調査費補助など)、④魚市場上屋建築(198m2)⑤漁港整備事業負担金(今年度分540万円)⑥漁港維持補修事業負担金(今年度分250万円)など＝2,990万円

●財産費関係
①公園敷地買収費(3回のうち第2回分)、②重平宅敷地払い下げ代金(8回のうち第1回分)、公園敷地買収にともなう立木伐採補償料など。＝964万円

●特別会計関係
(国民健康保険事業)一般会計から200万円を補充し、

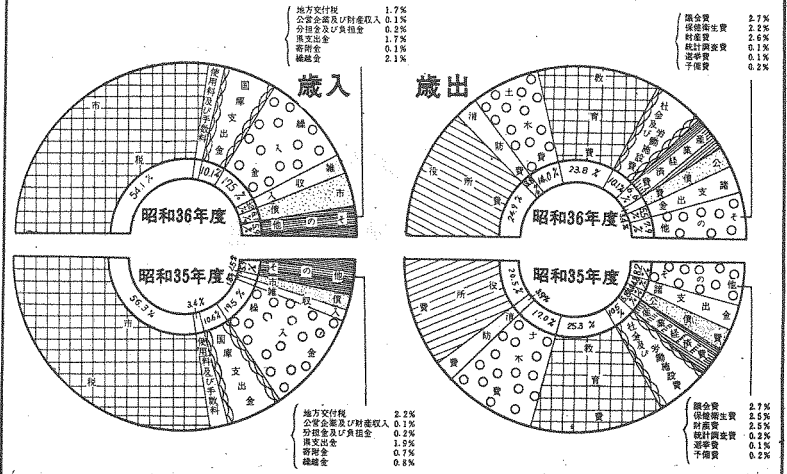
7,618万円を病気治療、助産、葬祭給付を行ないます。(国保診療施設事業)ここも一般会計から50万円を補充し、169万円を城島診療所を運営します。(簡易水道事業)一般会計より60万円を補充、2,077万円を金目、旭、上総、市営水道の経営にあたるほか、岡崎・城島地区簡易水道新設第2年次工事をする予定です。(都市改造事業)一般会計から3,089万円を繰り入れ、総額7,833万円をもつて、引き続き本宿、馬入、須賀北、須賀南四工区の土地区画整理事業にあたります。①本宿迂回線、馬入工業区街路整理(17,802m2)、②本宿工業区、馬入工業区測溝整備(661m)、③本宿工業区国道北側八間道路東側排水路工事(700m)、④仮設水路工事(全工業区330m)、⑤本宿工業区路面工事、⑥馬入工業区老松町公園整備(2,602m2)本宿工業区見附台入口簡易舗装、⑦本年度家庭物件・難作上作補償料など(馬入工業地帯造成事業)馬入工業団地造成事業として、1～5号道路、1～4号排水路、整地工事などを7,028万円を投じて進めます。

ご家庭でもこんな注意

一春の防犯運動

県警本部が中心となつて、いま県下いづれに春の防犯運動が行なわれています。毎年春になると、あきす、忍び込み、スリ行楽地では暴行、傷害、性犯罪などが急にふえるので、これらを事前に防ごうと行なわれているものです。ご家庭でも、こんな注意がのぞまれています。
①昼間でも必要ない所にはカギを、②外出には必ずカギを、③入る時カギを必ずカギをかけ、隣近所に頼んでおく。④一見してるとわかるようなカギのかけ方はいけない。⑤寝るときは戸締りの点検を。⑥貴重品は内ポケットに。⑦自転車には防犯登録とカギを。⑧ご婦人は遠まわりでも明るい道を。

一般会計昭和36年度予算と前年度予算の比較



わたくしたちの生活は、政治と密接な
関係があり、政治によって左右される

森 吉 正 照

